

第 93 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 北原 隆志

(山口大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長)

令和 6 年 8 月 3 日 (土) に山口大学医学部医修館第 1 講義室において、第 93 回医療薬学公開シンポジウム (主催：一般社団法人日本医療薬学会、共催：山口県病院薬剤師会、一般社団法人山口県薬剤師会、後援：公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学) を現地開催しました。山口県だけでなく近隣県からもお越しいただき、病院薬剤師、薬局薬剤師、薬学生を含め 82 名の先生方にご参加いただきました。

シンポジウムのテーマは「地域医療における医療 DX の推進に向けて」とし、これからの医療 DX をどのように活用するのかについて、参加者全員で議論しました。特別講演では、福井大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長の後藤伸之先生から「DI 業務における医療 DX の波～どの様な波が来るのか？その波の乗り方は？～」という演題名でご講演を賜りました。添付文書の電子化による活用や今後の医薬品情報や向き合い方、さらには生成 AI の活用方法について、非常に示唆に富むお話をいただきました。続いて開催したシンポジウムでは、「地域における医療 DX を推進するために」と題して、4 名の先生方にご登壇いただきました。まず基調講演として、九州大学病院メディカルインフォメーションセンターの高田敦史先生より「DX 時代の地域医療：これからの薬剤師のための基礎知識」という演題名でご講演いただきました。日本の医療 DX 政策を読み解くための基本的用語の解説から、電子処方箋や電子お薬手帳をどのように活用していくのかについてお示しくいただきました。続いて、徳山中央病院薬剤部の菅香理先生から「周南地区の電子処方箋開始までの活動報告」という演題名で、山口県周南地区で開始した電子処方箋開始までの運用方法について、具体的な事例をご紹介いただきました。続いて、山口県薬剤師会常務理事の河田尚己先生より「電子処方箋運用に向けた薬局での対応について」という演題名で、薬局の立場から電子処方箋への対応事例についてご講演いただきました。最後に山口東京理科大学薬学部の相良英憲先生より「大学教育が拓く医療の未来：地域の医療 DX を支える薬剤師の育成」という演題名で薬学部教育において医療 DX を活用した教育内容についてご講演いただきました。総合討論では、本シンポジウムのタイトルである地域医療で医療 DX を活用するために何を準備してどのように実行していくべきかを参加者全員と議論しました。会を締めくくるにあたり、一般社団法人山口県薬剤師会会長の吉田力久先生より全ての薬剤師が医療 DX に乗った未来を迎えられるよう激励のお言葉を賜りました。

最後になりましたが、遠路山口までお越しいただきすばらしいご講演を賜りました演者の先生方をはじめ、休日にもかかわらずご参加いただいた皆様、共催・後援いただいた山口県病院薬剤師会、山口県薬剤師会、山陽小野田市立山口東京理科大学の関係各位、そして企画・運営にご尽力いただいた日本医療薬学会事務局の方々をはじめ、ご協力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。